

山口情報芸術センター[YCAM] 2011年度開催事業



山口情報芸術センター[YCAM]は、2003年11月の開館以来、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現を追求しています。制作と発信、コラボレーションを実現する創造的な文化環境として、YCAMでは、独自のプロダクションを重要視し、メディアアート作品の展示、パフォーミングアーツ作品の公演、サウンドイベント、ワークショップ、映画上映などを開催しています。

開館から8年目を迎える2011年度は、メディア表現を専門とする研究開発チーム(YCAM InterLab)を有する、世界的にもめずらしいYCAMのプロダクション機能を生かし、新たな情報芸術の創造と発信を目指します。メディアテクノロジーがもつ社会性や公共性、応用や将来性について考察するとともに、アーティストやエンジニア、研究者、観客による豊かなコラボレーションが創出する新たな芸術表現を紹介します。

メディアテクノロジーの進歩に伴い、変容する社会と文化を見据え、私たちの感性や身体感覚を拓くアート。それは、新たなメディアを創出する技術とどのように関わるのか、テクノロジーと社会との関係に、どうやって対峙していくのか、といった人間と技術との共生へのビジョンを開示し、社会・文化創造の役割までを担っていくのかもしれない。YCAMは、2011年度もオリジナル作品の制作と発信、多彩なイベントの開催を通じ、次代に続く、文化創造のあり方を問いかけていきます。

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の際には、下記までご連絡ください。

お問い合わせ:

山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当:廣田

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

e-mail:information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>



山口情報芸術センター[YCAM] 2011年度開催事業

主要プログラム

2011年

開催中

企画展 滞在制作

真鍋大度+石橋素 新作インスタレーション「particles」(～5月)

[長期展示シリーズ] scopic measure #11/#12

4月

長期ワークショップ

meet the artist 2011

「ライブラリーラジオをつくろう」(～2012年2月)

5月

[映画鑑賞会]「映画を2回観る会」全3回(7月・2012年3月)

作品展示 滞在制作(YCAM委嘱作品)

平川典俊 新作インスタレーション

「Beyond the sunbeam through trees—木漏れ日の向こうに」(～8月)

コラボレーティブ・アーティスト:ミハエル・ローター、安藤洋子

[ライブコンサートシリーズ] sound tectonics #9

作品展示 滞在制作(YCAM委嘱作品)

安藤洋子 新作「Reacting Space for Dividual Behavior」(～8月)

6月

[演劇公演] アンドロイド演劇「さようなら」/ロボット演劇「働く私」

7月

ワークショップ 創作環境

「tecpot — 学べて創れるメディア工房」(～9月)

[研究開発]「YCAM Guest research project vol.1」

8月

[研究開発]「YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—」

[特別上映会] 真夏の夜の星空上映会

[見学ツアー(夏休み特別企画)]「夏休み YCAM探検クルーズ」

9月

[長期展示シリーズ] scopic measure #13

[ライブコンサートシリーズ] sound tectonics #10

企画展 滞在制作

LabACT — 視線入力技術 vol.1

ザカリー・リーバーマン「The EyeWriter」(～12月)

[特別上映会] 映像で見る世界のダンス vol.2「特集 土方巽」

10月

[ダンス公演] ボリス・シャルマツ「病める舞姫」

[レクチャー] メディアレクチャーシリーズ

12月

企画展 滞在制作(YCAM委嘱作品)

LabACT — 視線入力技術 vol.2

三上晴子「Molecular Informatics

—視線のモルフォロジー 3.0」(～2012年3月)

[長期展示シリーズ] scopic measure #14

[ダンス公演] 佐東利穂子「SHE — 彼女」

2012年

1月

[パフォーマンス公演] 山下残 新作パフォーマンス「庭みたいなもの」

3月

[研究開発] フォーサイズ・ダンス研究エクステンション

※イベント情報は変更となる場合がございます。最新情報は、YCAMのwebサイトをご確認ください。
※各イベントの詳細情報については、別途プレスリリースを発行いたします。

真鍋大度＋石橋素 新作インスタレーション「particles」



真鍋大度＋石橋素「particles」(2011)



真鍋大度「electric stimulus to face」(2008)



真鍋大度＋石橋素「fade out」(2010)



展覧会会場風景

2011年 3月5日(土)－5月5日(木・祝) 10:00-19:00

会場:スタジオB、2Fギャラリー 入場無料

躍進を続けるクリエイター、真鍋大度＋石橋素の活動を総合的に紹介する個展 メディアアートがもたらす、ユニークな発想と優れた技術を体験する

アートからデザイン、広告、音楽に至る幅広い領域で、メディア技術を用いた多彩な活動が続けるクリエイター、真鍋大度と石橋素による新作を発表する展覧会。新作「particles」は、LED（発光ダイオード）を内蔵した多数のボールが、螺旋構造のレールの上を次々に通過するイルミネーション・インスタレーションです。LEDが、様々なタイミングで発光することにより、光の粒子が浮遊し、空中に多様な形態と幻影的な残像を描き出します。

また、同時開催となるYCAM長期展示シリーズ「scopic measure（スコピック・メジャー）」では、ユニークな発想と優れた技術、その応用力で注目を集める彼らの代表作2作品を展示します。リサーチや研究、実験を重ねながら、躍進を続ける彼らの活動を紹介する初の本格的な個展を通じ、テクノロジーがもたらす新たな表現、メディアアートの魅力を体験してください。

同時開催 作品展示

YCAM長期展示シリーズ

scopic measure #11 真鍋大度「electric stimulus to face」(2008)

scopic measure #12 真鍋大度＋石橋素「fade out」(2010)

会場:ホワイエ 入場無料

メディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、これから期待されるアーティストの作品やプロジェクトを紹介するYCAMの長期展示シリーズ「scopic measure」。今回は、展覧会「particles」にあわせ、真鍋大度、石橋素の代表作と、体験型のインスタレーション作品を最新バージョンで展示します。

関連イベント

YCAMギャラリーツアー

〔会期中全18回〕14:00-15:00 参加無料

対象:小学生以上～一般(小学校1～3年生は保護者同伴)

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

YCAMの展覧会を、専門のスタッフとともに体験し、鑑賞のポイントを発見する恒例のギャラリーツアー。スタッフによる解説のもと、参加者みんなでディスカッションをしながら作品鑑賞の面白さを存分に体験することができます。見て、聞いて、そして質問して……。ひとつの展覧会から、たくさんの発見に出会えます。

開催日[4月-5月]:

4月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、29日(金・祝)、30日(土)

5月1日(日)、3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝)

meet the artist 2011「ライブラリーラジオをつくろう」



meet the artist 2011 講師：桂英史



参考写真：meet the artist 2010 アーティストレクチャーの様子



参考写真：meet the artist 2010 の様子

2011年4月24日(日)－2012年2月5日(日)

講師：桂英史(情報学／メディア論研究者)

参加無料 対象：高校生以上 ※要申込[申込受付開始：3月26日(土)]

ミニ・ラジオ局を設置。セミパブリックな空間としての「図書館」「書斎」とは……？ 大人が本気で取り組めるワークショップ、第6弾のテーマは「ラジオ」

「コラボレーター」と呼ばれる公募で集まった市民とアーティストが、1年間にわたって1つのクリエイションをおこなうワークショップシリーズ「meet the artist (ミート・ジ・アーティスト)」。

長期的な交流を通じて、参加者とアーティストは制作のプロセスを共有し、活動における思想や背景といった深いコンセプトを共に作り上げていきます。

第6回目となる今回のテーマは「ラジオ」。情報コンテンツ提供を担う公共サービスとしての図書館を参照しつつ、視覚から聴覚への多様な情報のあり方について考察します。また、セミパブリックな空間としての図書館／書斎のあり方、オーディオブックをはじめとする多様な電子媒体に着目し、ミニ・ラジオ局をYCAMに設置することを目指します。研究会やワークショップへの参加、レクチャーの開催、電子書籍のリリースなど、年間にわたる様々な活動を通じ、公共空間における情報サービスの未来を考えます。

レクチャー

アーティストレクチャー「ライブラリーラジオ宣言」

2011年4月24日(日) 14:00－16:00

講師：桂英史(情報学／メディア論研究者)

会場：スタジオA 参加無料

対象：高校生以上 ※要申込[申込受付開始：3月26日(土)] ※席に空きがあれば当日参加可

meet the artist 2011への参加のきっかけとなるよう、講師の桂英史が、これまでに取り組んできた公共施設のコンサルティングや、アーカイブ活動などを紹介。さらに、このワークショップの目的や、今後の活動について解説するレクチャーをおこないます。

成果発表

meet the artist 2011 成果発表

2012年2月4日(土)－5日(日)

会場：ホワイエ 入場無料

「meet the artist」では、これまでに、その活動の成果を展覧会や物販、出版、公演といった幅広い形態で発表してきました。今年度は、どんな成果が仕上がるのか……。講師とコラボレーターが公開イベントを実施し、1年間の活動について紹介します。

※このほか、期間中に講師、コラボレーターが公開イベントを開催する予定です。

※成果発表の詳細は、12月末に発表予定。

「映画を2回観る会」(全3回)



「おとぎ話」監督:プリート・バルン(1984)



「幽霊船」作:大藤信郎(1956)
©映像文化製作者連盟



「ストリート・ミュージック」監督:ライアン・ラーキン(1972)
Photo taken from the production
©1972 National Film Board of Canada
/ Office National du film duCanada. All rights reserved.

2011年5月8日(日)、7月23日(土)、2012年3月20日(火・祝)

会場:スタジオC

参加料:一般300円 / any 会員・特別割引200円[全席自由] ※要申込 ※席に空きがあれば当日参加可

映画について、いっぱい話そう、もう1回観てみよう

鑑賞の楽しさ、批評の視点を学ぶ、ワークショップスタイルの上映会

作品鑑賞の楽しみや、批評の視点を育むことを目指す、親子で参加できるワークショップスタイルの映画鑑賞会。映画を観て、それについて語り、再度同じ作品を観る、という一連の流れを通して、感想を共有し、解説を踏まえることで生まれる発見や喜び、おもしろさを体験することができます。全3回のシリーズでは、アニメーションや映画など、子どもから大人までそれぞれに楽しめる名作、そして映画史としても重要な作品を多数上映。映画を通じ、鑑賞する目を鍛えるとともに、作品を見て、考えて、言葉にする、という批評の視点を学ぶことができます。

「映画を2回観る会 vol.1 ー短編アニメーションー」

2011年5月8日(日) 13:30-15:30

講師:会田大也(YCAM教育普及) 対象:4歳以上(未就学児入場可) 予約受付開始:3月26日(土)

東欧(チェコ/エストニア)やカナダといった珠玉のアニメーションを生み出してきた国の代表的作家、イジー・バルタ、プリート・バルン、ライアン・ラーキンの作品を上映。そのほか、今やアニメ大国とよばれる日本の礎を創った大藤信郎の作品を紹介します。テレビではなかなかお目にかかれないアニメーションを、解説を挟んで2回鑑賞します。

上映作品:

「プロジェクト」監督:イジー・バルタ(1981年/チェコスロヴァキア) 配給:チェスキー・ケー

「ストリート・ミュージック」監督:ライアン・ラーキン(1972年/カナダ) 配給:トランスフォーマー

「おとぎ話」監督:プリート・バルン(1984年/エストニア) 協力:Eesti Joonisfilm、神戸アートビレッジセンター、CaTe bLanChe

「幽霊船」作:大藤信郎(1956年/日本) 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品

「黒ニャゴ」作:大藤信郎(1929年/日本) 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品

「映画を2回観る会 vol.2 ー短編映画ー」

2011年7月23日(土) 13:30-15:30

講師:会田大也(YCAM教育普及) 予約受付開始:5月28日(土)

国内外の優れた短編映画を、一挙上映。映画のエッセンスを凝縮したようなショートムービーの世界を楽しみながら、映画の自由な鑑賞方法を発見します。

「映画を2回観る会 vol.3」

2012年3月20日(火・祝) 13:30-15:30

講師:会田大也(YCAM教育普及) ※ほかゲストを予定 予約受付開始:2012年1月28日(土)

ゲスト講師を招いて、1年間のシリーズの総括をおこないます。

※プログラム詳細については、2012年1月末に発表予定。

平川典俊 新作インスタレーション

「Beyond the sunbeam through trees — 木漏れ日の向こうに」

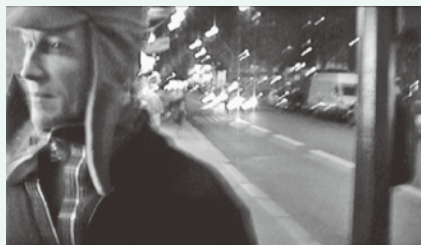
コラボレーティブ・アーティスト: ミハエル・ローター (作曲家/ミュージシャン)、安藤洋子 (ダンサー)



平川典俊 (現代美術家/写真家/コンセプチュアル・アーティスト)



参考写真: 平川典俊 [In search of a Purple Heart]
(2005, Salon94, ニューヨーク)



ミハエル・ローター (作曲家、ミュージシャン)
©Random Records, Michael Rother 2004.
photo: Olaf Wipperfurth, Abdruck honorarfrei, Belegexemplar erwünscht.
www.michaelrouther.de

2011年5月28日(土) – 8月21日(日) 10:00-19:00

会場: スタジオB 入場無料

ジャンルの異なる国際的なアーティストがYCAMに集結

インスタレーションとパフォーマンスが融合する、新たな表現形式への試み

これまでYCAMが発表してきた多様な形式によるオーディオビジュアル・インスタレーションの構想をさらに飛躍させ、光・映像・音響によるインスタレーションと、パフォーマンスが融合した新たな視点からの芸術表現を提案するプロジェクト。ギリシャ哲学で提示される、あらゆる存在の基底となる原初的な概念〈ピュシス〉*に言及しながら、身体性がもたらす時間や空間、意識の循環を、インスタレーション内のインタラクションとして提示します。

参加アーティストは、80年代より、ニューヨークを拠点に、幅広い作風と挑発的な表現を通じて、人間の自由意志に対する個人の認識を問いつける現代美術家、平川典俊。そして、ドイツの伝説的音楽グループ「NEU!」の創設者で、近年、世界的な再評価を受ける作曲家/ミュージシャンのミハエル・ローター。さらに、ウィリアム・フォーサイス率いるザ・フォーサイス・カンパニーの中心的存在として、世界の第一線で活躍するダンサー、安藤洋子がコラボレーション。ジャンルの異なる国際的なアーティストがYCAMに集い、新作を制作/発表します。

*ピュシス: physical, physicsの語源にあたるギリシャ語。

オープニングイベント

ライブコンサート sound tectonics #9

2011年5月29日(日) 14:30開演

出演: ミハエル・ローター (ギター、エレクトロニクス)、ジム・オルーク (ギター、エレクトロニクス) ※ほかゲストを予定

会場: スタジオA

料金: 前売 一般 3,000円 / any会員・特別割引 2,500円 / 25歳以下 2,300円 当日 3,500円 [オールスタンディング]

チケット発売日: 4月2日(土) ※未就学児入場不可

本展にあわせ、世界トップクラスの音響・映像設備と技術を誇るYCAMの機能を最大限に生かし、メディアテクノロジーを駆使したサウンドアートを紹介するコンサートシリーズ「sound tectonics (サウンド・テクトニクス)」を開催します。

ジャーマンロックグループ「NEU!」「Harmonia」のギターリストとして活躍するとともに、ソロワークにおいても、現在のエレクトロ・ポップに絶大な影響を与え続ける作曲家、ミュージシャンのミハエル・ローターによる待望のソロが実現。ゲストとして、ソニックユースへの参加をはじめ、世界的に活躍を繰り広げるジム・オルークが出演。YCAMだからこそ実現できるハイクオリティなサウンドと先鋭な音響・音楽表現の競演にご期待ください。

※このほか、会期中に、関連映像の特集上映会を開催予定。

関連イベント

YCAMギャラリーツアー

[会期中16回] 14:00-15:00 参加無料

対象: 小学生以上〜一般 (小学校1〜3年生は保護者同伴)

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

開催日:

6月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)、25日(土)、26日(日)

7月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、30日(土)、31日(日)

8月6日(土)、20日(土)

作品展示 滞在制作 (YCAM委嘱作品)

安藤洋子 新作「Reacting Space for Dividual Behavior」

(フォーサイズ・ダンス研究エクスチェンジ)



参考写真:The Forsythe Company「Theatrical Arsenal II」
(ダンサー:安藤洋子、島地保武)
photo: Dominik Mentzos



参考写真:William Forsythe「Heterotopia」(ダンサー:安藤洋子)
photo: Sylvio Dittrich

2011年5月28日(土) - 8月21日(日) 10:00-19:00

会場:ホワイエ 入場無料

コンテンポラリーダンスの最前線を担うウィリアム・フォーサイズ率いるザ・フォーサイズ・カンパニーの中心的ダンサーである安藤洋子とYCAMが、共同で研究／発表する新作。安藤がカンパニーで培ってきた、自己の身体のメカニクスと周囲の空間、そして知覚との関係性を、ひとつの方法論へと昇華させ、体験型インスタレーションとして発表します。

オープニングイベント

ダンス公演 安藤洋子 ソロダンスパフォーマンス

2011年5月28日(土) 19:00-19:40

出演:安藤洋子(ダンサー)

会場:ホワイエ 入場無料

「Reacting Space for Dividual Behavior」の作品空間で、作家本人によるダンスパフォーマンスをおこないます。

※このほか、会期中に、安藤洋子(ダンサー)を講師に迎え、展示作品を用いた身体ワークショップを開催予定。

演劇公演

アンドロイド演劇「さようなら」／ロボット演劇「働く私」



アンドロイド演劇「さようなら」 photo:Tatsuo Nambu
(提供:あいちトリエンナーレ2010)



ロボット演劇「働く私」(TPAM in Yokohama 2011)
photo:Tsukasa Aoki

2011年6月18日(土) 19:00開演、19日(日) 14:00開演

会場:スタジオA

料金:前売 一般1,300円／any 会員・特別割引800円／25歳以下600円 当日 1,800円[全席自由]

チケット発売日:4月9日(土) ※未就学児入場不可

ロボット工学の最先端技術と演劇のコラボレーション

発見する、体験するー。2日間で違った楽しみ方ができる演劇公演

劇作家／演出家の平田オリザと、ロボット工学の第一人者、石黒浩によるロボット演劇プロジェクトの2作を一挙上演。アンドロイド演劇「さようなら」では、実在のモデルそっくりに開発されたアンドロイド「ジェミニノイドF」が、ロボット演劇「働く私」では、コミュニケーションロボット「wakamaru」が、俳優と共演します。人間とロボットの新たな関係を描写した本作は、「人間らしさ」や「人の心」といったテーマを考えるきっかけを与えます。

また、2日間の公演終了後には、各回で内容の異なるイベントを開催します。1日目(18日)には、石黒浩らをゲストに迎え、ロボット演劇プロジェクトとその発展性について紹介する「トークイベント」を、さらに2日目(19日)には、作品に登場したロボットに出会えるイベント「アフターアワーカフェ」を実施します。本公演と終演後のイベントを通じ、ロボット工学と演劇が導く新たな視点をご紹介しますとともに、最先端技術に親しむ機会を提供します。

「tecspot — 学べて創れるメディア工房」



参考写真:これまでのYCAMワークショップの様子

2011年7月・9月 13:00-19:00[期間中16日間]

会場:2Fギャラリー 入場無料

対象:小学3年生以上〜一般 座席数:10席 講習時間の目安:1〜3時間

※要申込(参加希望日の1週間前までにお申し込みください)

※席に空きがあれば当日参加可 ※未就学児入場不可

プログラミング、映像制作、電子工作、音響制作、ソフトウェア教育—— メディアテクノロジーに触れる・体験する特別スペースがオープン

メディア表現に出会い、さらなる発見を生み出す環境として、また、地域の新たなコミュニケーションの拠点となることを目的とし、気軽に立ち寄れ、実際にメディアテクノロジーを用いた多様な制作や学習をおこなえる特別スペースを開設します。

「tecspot (テックポット)」では、専門の講師が常駐し、プログラミングや映像制作、電子工作、ソフトウェア教育、音響のワークショップなど、利用者の興味や目的にあわせた講習を受講できます。また、パソコン等の常設の機材を使い、自ら制作することも可能です。YCAM初となる本格的な創作環境の運用が、文化施設の機能拡大、豊富な利用方法を育むモデルケースとなることを目指します。

開催日:

7月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)、30日(土)、31日(日)

9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、19日(月・祝)、24日(土)、25日(日)

「YCAM Guest research project vol.1」



参考写真:
Kyle McDona "DIY 3d Scanning"より
(2009-)

2011年8月ー10月

研究者:カイル・マクドナルド(メディアアーティスト)

優れたメディア芸術を発信する環境へ 技術の醸成と蓄積、公開を目指す、滞在研究プログラムをスタート

技術者間の交流と人的ネットワークの構築、さらには研究領域の拡大と成果の普及方法を探索することを目的にスタートするYCAMの滞在研究プログラム「YCAM Guest research project」。第1回目となる今回は、アーティストとして、さらには優れた技術者として、哲学、科学、メディアアートにおよぶ広範な領域で活動するニューヨーク在住の研究者を招聘します。彼のプロジェクトであるオープンソース3Dスキャナなどの技術を活かし、「身体情報の取得」などをテーマに、ソフトウェア／ハードウェアの共同研究開発をおこない、その成果をオープンソースで公開します。
※研究の様子、成果については、webサイトにて随時公開します。

「YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—」



TECHTILEの研究開発の様子

展覧会 TECHTILE 「触覚の工学×触覚のデザイン」の様子(2007)
photo: NOSIGNER

2011年度－2012年度〈2年継続〉

研究者:仲谷正史(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科訪問上席研究員)

寛康明(慶應義塾大学SFC専任講師／独立行政法人科学技術振興機構さきがけ研究員)

触感を再現する技術と触感を表現する感性

最先端技術の応用から、思考・実験・実践を重ねる

第一線で活躍する技術者、研究者を迎え、メディアアート作品に使われる最新技術、ツール、環境、その応用方法について、レクチャーやワークショップ、成果発表などを通じて研究を深める「YCAM InterLab Camp(インターラボ・キャンプ)」。

2回目となる今回は、科学的な研究分野として注目される「触覚」をキーワードに、最先端の技術(Technology)と触覚の表現(Tactile)との融合を目指す「TECHTILE(テクタイル)」をメインテーマに、2名の研究者を迎えます。

2年間の継続プロジェクトとして、今年度は、研究者とYCAMが共同し、触覚表現技術を応用したプロトタイプツールの開発やメディアアート作品、パフォーマンスアーツの分野への導入の可能性を検証していきます。

次年度には、中・上級者向けの集中講座として、「TECHTILE」の表現方法や技術を習得するワークショップを開催予定です。

シンポジウム 一般公開

シンポジウム「TECHTILEという考え方:触感を表現する・触感で表現する」

2011年8月21日(日) 14:00-18:00

講師:仲谷正史(研究者)、寛康明(研究者)、YCAM InterLab ※ほかゲストを予定

会場:スタジオA 参加無料

対象:高校生以上 ※要申込[申込受付開始:6月4日(土)] ※席に空きがあれば当日参加可

「YCAM InterLab Camp vol.2」のメインテーマである「TECHTILE」について紹介するシンポジウムを開催。

触感にまつわる技術とデザイン、その表現方法の現在形を考えるとともに、YCAMと研究者による共同開発へのビジョン、研究報告をおこないます。

特別上映会

真夏の夜の星空上映会



「真夏の夜の星空上映会」(2009)

2011年8月12日(金)－14日(日) 19:30(日没後)

会場:中央公園(山口情報芸術センター正面) 入場無料 ※雨天の場合は、YCAM内

今年も開催! 夏の野外上映会

夏の思い出に、芝生に寝転んで映画を楽しもう

毎年大好評の野外上映会を、今年も3日間にわたって開催。涼くなった夏の夕暮れに、輝く星空のもと、芝生のうえで映画を楽しむイベントです。幅広い世代で、家族そろって気軽にお楽しみいただけます。

※プログラム詳細については、6月末に発表予定。

「夏休み YCAM探検クルーズ」



参考写真:「バックステージツアー2010」の様子

2011年8月13日(土)・14日(日) 14:00-15:30[各日完結／全2回]

会場:YCAM館内 参加無料

対象:小学生以上(小学1〜3年生は保護者同伴) 定員:各回45名

※要申込[申込受付開始:6月25日(土)] ※空きがあれば当日参加可

国内唯一の情報芸術の発信拠点、YCAMを知る

現場に触れて、メディアアートの魅力、アートセンターの未来を感じる

開催中の展覧会のほか、YCAMの施設の舞台裏と、展覧会や舞台公演をつくるスタッフの仕事を学ぶ、恒例の夏休み企画。普段は見ることができない、アートセンターの制作の現場や専門スタッフの解説に触れながら、未来の鑑賞者を育成するとともに、YCAMの目的や役割、特徴についてご紹介します。

作品展示

scopic measure #13 黒川良一 新作インスタレーション



参考写真:黒川良一「rheo: 5 horizons」(2010)
© Ryoichi Kurokawa

2011年9月17日(土) - 11月13日(日) 10:00-19:00

会場:スタジオB 入場無料

ミニマルと複雑系の共存 — 空間と時間の彫刻

世界で反響を巻き起こす期待のアーティストの新作を紹介

「scopic measure」第13弾には、世界最大規模を誇るメディアアートの祭典「Ars Electronica (アルス・エレクトロニカ)」デジタル・ミュージック部門において、ゴールデン・ニカ(大賞)を受賞した黒川良一が登場。複数のモニターとスクリーン、そして多チャンネルのサラウンドシステムを用いた、緻密な映像と音響表現によるインスタレーションを展示します。「空間と時間の彫刻」と評される、ミニマルと複雑系が共存するオーディオビジュアルの研ぎ澄まされた世界をご紹介します。

オープニングイベント

sound tectonics #10

2011年9月17日(土) 19:00開演

出演:黒川良一 ※ほかゲストを予定

会場:スタジオA 料金未定 チケット発売日:7月30日(土) ※未就学児入場不可

新作の展示にあわせ、黒川良一とゲストによるライブコンサートを開催。デジタル生成された素材とフィールドレコーディングによる映像と音響、それらの同期や相互関係を巧みに操るライブパフォーマンスを繰り広げます。YCAMの建築的な特性を生かしながら、音像の移動や響き、大型スクリーン映像との連動など、電子音響の美しさと迫力の世界を体感できます。

※プログラム詳細については、7月末に発表予定。

「LabACT — 視線入力技術」



Zach Lieberman, Evan Roth, James Powderly, Theo Watson, Chris Sugrue, Tony TEMPT1 "The EyeWriter"



参考写真:三上晴子「Molecular Informatics Version 3.0」
(1998, Maison des Arts de CRETEIL & Le Manège Maubeuge, フランス)



Zach Lieberman, Evan Roth, James Powderly, Theo Watson, Chris Sugrue, Tony TEMPT1 "The EyeWriter"

2011年9月17日(土) - 2012年3月31日(土)

入場無料

メディアテクノロジーの社会性と公共性を、アートから見据える YCAMが繋ぐ、技術とアート・研究と成果

メディア表現を専門とし、作品のプロダクションを支える研究開発チーム(YCAM InterLab)を有するYCAM。「LabACT(ラボ・アクト)」とは、YCAMのプロダクション機能を生かし、外部のアーティストとエンジニアとのコラボレーションの成果や、アートにおけるメディアテクノロジーの研究開発、技術蓄積の意義、その社会性や公共性、応用や将来性について、幅広い視点で紹介する試みです。

今回は、視線の動きをセンシングプログラムで検出する「視線入力技術」に着目し、メディアアーティストを中心とした共同開発プロジェクト、そして視線によって3次元空間に形態を生成するアート作品を、会期を2期に分けてご紹介します。メディアテクノロジーを追求し、新たな身体性を拡張・創出する2つの作品とその活動事例を参照し、技術とアイデア、アーティストの完成が結びつく、創造性の未来を感じることができます。

作品展示

LabACT vol.1

ザカリー・リーバーマン「The EyeWriter」

2011年9月17日(土) - 12月25日(日) 10:00-19:00

会場:ホワイエ 入場無料

ALS(筋萎縮性側索硬化症)で体が麻痺したアメリカのグラフィティアーティストが「再び絵を描けるように」という願いをきっかけに始まったプロジェクト「The EyeWriter」。アーティストとエンジニアをはじめ、世界各地の多くの参加者によって、手軽なデバイスとオープンソースソフトウェアによる、目の動きだけで絵が描ける装置が開発されました。本展では、社会福祉をはじめとする研究開発の応用成果や、オープンソースの思想といったプロジェクトの背景を通じ、メディアテクノロジーの創造性と発展性について考えます。実際に「The EyeWriter」を体験できるほか、デバイスを用いたオリジナルワークショップを開催します。

オープニングイベント

レクチャー&シンポジウム「視線の社会学—“The EyeWriter”がもたらすコミュニケーション」

2011年9月17日(土) 14:00-16:00

出演:ザカリー・リーバーマン ※ほかゲストを予定

会場:ホワイエ 入場無料

「The EyeWriter」の発起人で、開発チームの中心人物でもあるザカリー・リーバーマンによるレクチャーとシンポジウムを開催。プロジェクトの活動やアップデート・ストーリーを通じて、メディアテクノロジーのもつ社会的な意味、貢献性、将来性について検証します。

関連ワークショップ

オリジナルワークショップ

2011年11月12日(土)、13日(日) 14:00-17:00 [各日完結 / 全2回]

会場: 創作・学習室ほか

料金: 500円

対象: 小学4年生以上～一般 定員: 各回10名 ※要申込 [申込受付開始: 9月17日(土)]

「The EyeWriter」で使用する視線検出デバイスを用いた、YCAMオリジナルワークショップ。「身体」「コミュニケーション」をキーワードに、「視線」がもつ多様な可能性を探っていきます。

作品展示 滞在制作 (YCAM委嘱作品)

LabACT vol.2

三上晴子「Molecular Informatics — 視線のモルフォロジー3.0」

2011年12月4日(日) – 2012年3月31日(土)

会場: スタジオB 入場無料

情報社会と身体というテーマを一貫して追求し、インスタレーション作品を発表し続けてきた三上晴子。彼女の代表作「Molecular Informatics (モレキュラー・インフォマティクス)」を、YCAM InterLabとの共同研究開発により、最新技術を反映させるアップデートバージョンとして発表します。

本作は、「視ることそのものを視る」「視線を成立させる意識と無意識の連鎖」というコンセプトから発想され、体験者の視線の動きによって、3次元仮想空間に形態を生成していくインスタレーションです。自らの視線が映像として可視化される本作は、1996年の初公開で大きな反響を呼び、メディアアートの代表的な作品として、以降もバージョンアップをしながら世界各地で発表され続けています。独自に開発した視線入力技術を導入する今回のアップデートでは、2人の体験者が仮想空間を共有し、可視化される視線(映像)によって、触覚的ともいえるコミュニケーションを実現します。これまでに見たことがないような有機的な構築物が、仮想空間に映像として立ち現れてきます。

※このほか、会期中の週末を中心に、ギャラリーツアーを開催予定。



参考写真: 三上晴子「Molecular Informatics Version 2.0」
(1996, DEAF 96, Rotterdam, オランダ)



参考写真: 三上晴子「Molecular Informatics Version 3.0」
(1998, Maison des Arts de CRETEIL & Le Manège Maubeuge, フランス)

特別上映会

映像で見る世界のダンス vol.2 「特集 土方巽」



「土方巽 夏の嵐」監督: 荒井美三雄 (1973-2003)



「土方巽 夏の嵐」監督: 荒井美三雄 (1973-2003)

2011年9月23日(金・祝) – 25日(日)

会場: スタジオC

料金未定 (ダンス公演 ボリス・シャルマツ「病める舞姫」とのセット券あり)

※要予約 [予約受付開始: 8月6日(土)] ※席に空きがあれば当日参加可 ※未就学児入場不可

パフォーミングアーツの歴史と魅力を再発見する

今もなお、世界中の芸術家に影響を与え続ける舞踏家が蘇る

舞台芸術の歴史と、映像によって語られる身体表現の魅力を紹介する特別上映会。2回目となる今回は、暗黒舞踏の創始者として、身体表現のみならず、芸術、文学に至る幅広い分野に影響を与えた舞踏家、土方巽(1986年没)を特集します。YCAMでは、土方の舞踏論「病める舞姫」から発想した同名のダンス公演を10月に開催。本公演を前に、この作品を手掛けた振付家、ボリス・シャルマツをはじめ、国内外の多くの舞踊家を魅了し続ける土方巽の思考に迫ります。期間中には、ゲストを招いたトークイベントを開催し、偉大な芸術家の姿とその魅力を、幅広くご紹介します。

※プログラム詳細については、7月末に発表予定。

ボリス・シャルマツ「病める舞姫」



photo: Fred Kihn



photo: Fred Kihn

2011年10月10日(月・祝) 15:00開演

会場:スタジオA

料金:前売 一般3,000円／any 会員・特別割引2,500円／25歳以下2,300円 当日3,500円[全席自由]
(特別上映会 映像で見る世界のダンス vol.2「特集 土方巽」とのセット券あり)

チケット発売日:8月6日(土) ※未就学児入場不可

フランスを代表する先鋭的振付家と映画女優が豪華共演 日本の舞踏論がダンスに新たな生命を与える

フランスダンス界のヌーヴェル・ヴァーグを代表する先鋭的振付家ボリス・シャルマツ、そしてフランスの現代映画女優のジャンヌ・バリバールが共演したダンス公演。日本が生んだ暗黒舞踏の始祖である土方巽のテキスト「病める舞姫」とともに、豊かなイメージがちりばめられたパフォーマンス、巨大なマシンが圧倒する舞台美術が、心をかき乱す繊細で強烈な世界観を描き出します。土方巽の言葉をヒントに、ダンスに新たな生命を与える衝撃作をお楽しみください。

関連上映

「特集 ジャンヌ・バリバール」

2011年10月8日(土)－10日(月・祝)

会場:スタジオC 料金未定

ボリス・シャルマツ「病める舞姫」開催にあわせ、女優ジャンヌ・バリバール出演の映画を特集上映。オリヴィエ・アサイヤスやジャック・リヴェット、ペドロ・コスタをはじめとする名監督の作品に出演し続ける、フランス現代映画を代表する女優の魅力に迫ります。

※プログラム詳細については、7月末に発表予定。

メディアレクチャーシリーズ



参考写真:これまでのレクチャーの様子(2010)

2011年10月23日(日) 14:30-16:30

会場:スタジオA 入場無料

※要申込[申込受付開始:8月27日(土)] ※席に空きがあれば当日参加可

情報技術とともに変容する社会、科学、環境をとらえる 大好評のYCAMレクチャーシリーズ待望の第2弾がスタート

現在の情報化社会を考え、情報による新たな「環境」への価値観を創出するレクチャーシリーズをスタート。社会学者、科学者、批評家、哲学者などを講師に、メディアテクノロジーによって変容する情報のあり方を、広範な領域への分析から、独自の視点で捉えます。情報がもたらす、知覚可能な世界と不可視の領域を見据え、私たちを取り巻く「環境」の概念を、発展的に考えていきます。

※プログラム詳細については、8月末に発表予定。

scopic measure #14

2011年12月4日(日)－2012年3月 10:00-19:00 ※プログラム詳細については、9月末に発表予定。

佐東利穂子「SHE—彼女」



佐東利穂子「SHE—彼女」 photo: Sakae Oguma

佐東利穂子「SHE—彼女」
photo: Toshiaki Yamaguchi

2011年12月11日(日) 14:00開演

会場:スタジオA

料金:前売 一般2,500円/any 会員・特別割引2,000円/25歳以下1,800円 当日 3,000円[全席自由]

チケット発売日:10月8日(土) ※未就学児入場不可

勅使川原三郎ディレクションによるソロダンス作品、待望の公演

豊かな身体性と研ぎ澄まされた空間造形が見せる、身体表現の新たな次元

振付家／ダンサーとして、さらには美術家／映像作家として国際的に注目されるアーティスト、勅使川原三郎ディレクションによる初のソロ作品を上演。ダンサー、佐東利穂子は、1996年より勅使川原三郎振付の全グループ作品に出演し、ソリストとして活躍し続けています。その独特の身体表現には、空間に溶け入るような感覚、質感を自在に変化させるような豊かな身体性を見ることが出来ます。2009年の初演以降、ノイズと静寂、語りと音楽、映像と光による研ぎ澄まされた空間で、世界を魅了する本作を通じ、身体表現の新たな次元をご紹介します。

※関連イベントとして、佐東利穂子によるワークショップを開催予定。

山下残 新作パフォーマンス公演「庭みたいなもの」

参考写真:山下残と舞台美術家とのコラボレーション公演
(提供:高松市美術館)

参考写真:山下残パフォーマンス公演「せきをしてひとり」(2010)

2012年1月29日(日) 14:00開演

会場:スタジオA

料金:前売 一般2,500円/any 会員・特別割引2,000円/25歳以下1,800円 当日 3,000円[全席自由]

チケット発売日:11月12日(土) ※未就学児入場不可

共同プロデュースによって実現する、独特の方法論と実験的な創作

身体表現がもたらす、「からだことば」の新たな出会い

言葉とダンスを融合した、独自の方法論と構造をもったパフォーマンス作品を発表する振付家／ダンサーの山下残の最新作を、YCAMとSTスポット(横浜)、AI・HALL(兵庫)の3館が共同プロデュース。新作では、オーソドックスな演劇とは異なる方法論でテキストを扱う実験的パフォーマンスに挑戦します。多様な創作スタイルと制作プロセス、そして、近年には、アジアのアーティストとのコラボレーションでも注目を集める山下残による、時にユーモラスで、シャープなコミュニケーションの形にご期待ください。

関連ワークショップ

YCAMオリジナルワークショップ

2012年1月21日(土)ー22日(日)

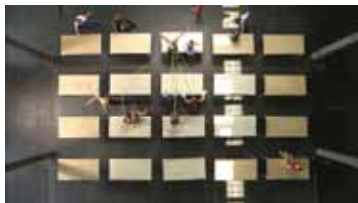
講師:山下残(振付家／ダンサー)

会場:スタジオA 料金未定 対象:高校生以上 ※要申込[申込受付開始:11月12日(土)]

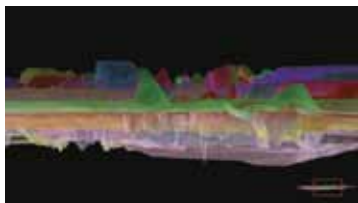
山下残の創作手法である「からだことばの関係」に注目し、その視点を体験するYCAMオリジナルワークショップを開催します。空間と時間を、踊りと言葉によって埋めていく制作プロセスを通じ、ダンスと言葉が導く想像力を再発見します。

※プログラム詳細については、10月末に発表予定。

フォーサイス・ダンス研究エクスチェンジ 「YCAM+安藤洋子 & フォーサイス・モジュール」



参考写真:プロジェクトSynchronous Objectsより
Cueing System (2009)



参考写真:プロジェクトSynchronous Objectsより
Geographic Applications (2009)



参考写真:プロジェクトSynchronous Objectsより
Form Flow (2009)

2011年4月－2012年3月

研究者:安藤洋子(ダンサー)、ノラ・ズニガ・ショウ(研究者)、ブルーノ・ベルトラオ(振付家)、YCAM InterLab

メディアテクノロジーが拓く、ダンス表現の創造性

フォーサイスの身体表現から派生した、研究成果と技術開発を交換する

YCAMでは、ダンサー、安藤洋子(ザ・フォーサイス・カンパニー)との共同制作として発表する新作「Reacting Space for Dividual Behavior」について、その開発内容の更なる可能性と発展性を検証します。

ここでは、振付家、ウィリアム・フォーサイスの身体表現のメソッドから派生した、YCAMとオハイオ大学(アメリカ)の2つの研究事例を参照し、相互交流をおこなうことで、ダンスとテクノロジーにおける研究開発とその応用領域の拡張を目指します。2012年3月には、フォーサイスとともに、振付の構造をデータ化し、様々なビジュアルモードで可視化するシステム「フォーサイス・モジュール」を共同開発した、オハイオ大学の研究チームを招聘。YCAMと安藤洋子との共同研究、そしてオハイオ大学における研究を紹介する公開シンポジウムを開催します。メディアテクノロジーを応用し、ダンスを新たな表現としてアウトプットする国際的な2つの試みをご紹介します。

※3月中旬に、本プロジェクトの成果を紹介する公開シンポジウムを開催予定。

YCAMシネマ



YCAMでは、多彩で豊かな映画芸術、映像文化に幅広く触れていただけるよう、様々なジャンル、地域の映画、映像作品を上映しています。山口で上映される機会の少ない作品を中心にセレクトし、より深い洞察や理解を促すための特集上映や、ゲストを招いた関連イベントなども開催しています。

YCAMシネマの上映シリーズ

Select CINE TECTONICS (セレクトシネテクトニクス)

映画史およびメディア史の視点から、芸術作品としての映画を紹介するシリーズ。世界の様々な地域の古典から新作まで、山口では上映される機会の少ない作品を上映しています。

特集上映

作家やテーマ別のYCAMオリジナル企画のほか、文化庁推薦作品などの優れた特集上映を開催しています。また、監督や評論家によるゲストトークなど、関連イベントも実施しています。

※このほか「コミュニティシネマ」として、クラシック映画から、ミニシアター系まで、多彩な作品を上映しています。



アート ↔ メディア ↔ 身体表現の新領域を拓げる 情報芸術の創造と発信拠点

新たな芸術表現の創造

メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現の創出を目指し、YCAMでは、アート、パフォーマンスアーツのオリジナル作品(委嘱作品)の制作をおこなっています。メディア表現を専門とする研究開発チーム YCAM Inter Lab による共同開発のもと、国内外の様々なアーティストがYCAMに滞在し、制作した作品は国際的にも高い評価を得ています。YCAMの有する高度な技術力、国内外の多様な芸術表現に対応する応用力、そしてアーティストの感性を結びつける独自のプロダクションを通じ、新しい芸術表現の可能性を開示します。

想像力と思考の育成

情報社会への関心やリテラシーの普及・拡大を目指し、YCAMでは、「メディア」「社会」「身体」をキーワードにオリジナルワークショップの開発と実施をおこなっています。また、新たな芸術表現に触れ、より有意義に作品を楽しむ機会となるよう、ギャラリーツアーをはじめとする様々な教育普及事業を展開しています。さらに、同時代の優れたパフォーマンスアーツや、YCAMの優れた音響・映像環境でしか体験できないサウンドアートの紹介を積極的におこなうことで、人々が出会い、対話し、発見する場を提供しています。

地域と世界を結ぶ発信

新たな芸術表現がもたらす創造的な文化創造の醸成を目指し、YCAMでは、情報の発信、収集、蓄積、さらにはオリジナル作品(委嘱作品)の巡回展示・公演を積極的におこなっています。YCAMにおけるオリジナル作品の制作とそのプロセスを重要視し、地方から発信し続ける独自の視点をもつことで、現在から次代を見通した情報発信やアーカイブの充実をはかっています。地域と世界を結び、観客のリアクションや学び、気づきを生み出すことで、YCAMの取り組みは、芸術活動と社会、文化へと循環を続け、多様な交流を生み出しています。

ワークショップ／レクチャー申し込み方法

[※要申込／要予約のイベントのみ]

チケットインフォメーション窓口または、はがき、FAX、e-mailにて、参加ご希望のイベント名をご記入のうえ、住所、氏名、生年月日、電話番号・e-mail等の連絡先とともに、下記までお申し込みください。

〒753-0075

山口市中国町7-7 山口情報芸術センター

FAX:083-901-2216

e-mail:workshop11@ycam.jp

山口情報芸術センター Yamaguchi Center for Arts and Media

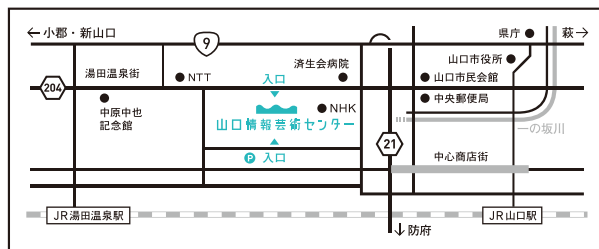
[開館時間] 10:00-20:00 (夜間イベントのある日は22時まで開館)

[休館日] 火曜日(祝日の場合は翌日) / 年末年始(12/29-1/3)

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp http://www.ycam.jp/



チケットのお求め(any会員、一般とも共通)

電話／窓口 山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

083-920-6111 10:00-19:00
火曜休館・祝日の場合は翌日

インターネット 山口市文化振興財団

http://www.ycfcp.or.jp/ 24時間受付
要事前登録

◎特別割引:青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名の方には、公演や映画の入場割引があります。チケットのご予約や購入の際は、割引の旨をお知らせください。
◎車椅子席・補聴システム:事前にお問い合わせください。

YCAM までのアクセス



山口宇部空港まで
・東京から1時間30分

→ 山口宇部空港から
・空港連絡バスでJR新山口駅まで 20分
・乗合タクシー「空港エクスプレス」で約1時間
(前日18:00までの予約制 大塚タクシー Tel: 0120-31-0860)



JR新山口駅まで(新幹線のぞみ利用)

・東京から約4時間50分
・新大阪から約2時間10分
・広島から約35分
・博多から約40分

→ JR新山口駅から
・防長バス/JRバス 約30分、中国町下車すぐ
・JR山口線、湯田温泉駅下車(18分)のち
徒歩25分/タクシー 5分
・JR山口駅、山口駅下車(21分)のち
徒歩25分/バス10分/タクシー 5分



広島から 山陽自動車道で約1時間30分、防府東ICから30分
福岡から 九州・中国自動車道で約2時間、小郡ICから25分